
タイトル未定

ケロい人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タイトル未定

【Nコード】

N4649Z

【作者名】

ケロい人

【あらすじ】

皆様の作品を読ませていただいたらつい自分も書きたくなつた。

勢いで登録し、勢いで投稿。

後悔もしてるし、反省もしている。

反響があれば続きを・・・がんばろうと思います。

ある程度まではストーリーはできているので、加筆しつつゆっくり

投稿していければな〜と思ってます。
更新は不定期です。

プロローグ(前書き)

物語の舞台となる世界について？

プロローグ

遙か昔、世界の覇権をめぐる戦いがあった。

神と魔。戦いは熾烈を極めた。しかし、その戦いは第三の勢力の出現によりあつけなく終わりを迎える。

両者の力の衝突による滅びを回避するため、世界が生んだ最強の力、竜。

その牙は堅牢たる神の守りを容易く打ち砕き、その鱗は魔のもたらず破壊をその身に通すことはない。

竜が行うは「戦い」ではなく「蹂躪」。

世界は他を省みない神魔の存在を許さない。逃れることのできない滅亡を悟った両陣営は自身の後継たる者として新たなる種を作り出す。エルフと魔族。

そして、神と魔は自らの子となるものに世界を託す。

神はその身を純然たる力として世界を満たす。その力は後にマナと呼ばれることになる。

魔は残りの力を結集し、己が未裔たる物の血に呪まじないをかける。

これらの行いに心打たれた世界は神と魔の滅びをもって戦いを終わらせる。

調停の役目を終えた竜は世界の意思により残された種を監視すべく獣人を生み出す。

同様の事があれば次こそ滅ぼしつくすために。

そして自身はこことは異なる己の世界へと戻り眠りにつく。

世界は次なる支配種として人間を生み出す。

しかし人間は非力な生き物であった。

世界に残ったエルフ、魔族との競争に彼らは間違いなく適わない。

いや、そもそも荒廃した今の世界では生き残ることさえ難しいだろうと。

度重なる衝突により溢れた破壊と憎悪の力は強く残った。世界や竜

の力をもってしても浄化することさえ困難なほどの残滓が。

それはマナに影響を与え魔物を生み出したのだ。

世界は神によって残されたマナが狂うのを抑止し、人間を守護する者として精霊を作り上げた。

そして一つの時代が終わり、新たなる時代が幕を開ける。

プロローグ（後書き）

次から本編へ。

舞台はこの数百年後。

魔法と魔法科学が発達した世界。

中世レベルの社会なのに過去の戦争の傷跡として、戦争関連の技術がロストテクノロジーとして残る。

矛盾爆発は不思議世界。

大丈夫、その謎はきっといつかなんとかします！

第1話「収穫祭（フェスト）」（前書き）

プロローグで力尽きた作者です。
もうちょっとがんばります！

第1話「収穫祭（フェスト）」

ここはインハルテ領。その中でも都市を遠く離れた小さな人間の農村。

その日の村は活気に溢れていた。

収穫祭。

作物の無事の収穫を精霊様に感謝を捧げる日。

そして僕ことウィルフレド。ズイーベンの誕生日でもある。

ズイーベンの名は人間の貴族の一家だ。

最初に生み出された人間を祖に強く力を引いた家系。

アインツ、ツヴァイ、ドライ、フィア、アハト、ノイン、ズイーベ
ン、ツヴァンティツヒ。

元は10貴族だったらしいが、国の衝突や災害、後継者の死去により消えていったそうだ。

今日は朝早くから家族。うちは両親と兄、妹の5人家族だ。で収穫祭の準備をしていた。

貴族とはいつても昔の話。うちはとつくに落ちぶれ今となっては人口50人にも満たない小さな村が2・3ある首都から遠く離れた田舎の弱小領主だ。

僕のことなんかおいておいて話を戻そう。

この村では収穫祭といってもそれほど盛大に行う訳ではない。

広場に集まって、村総出で食べ物や酒を持ち寄って精霊様に感謝をささげる。

子供の僕たちにしたらちよつと豪華な食事ができる村のパーティー。母さんなんかは、「用は・・・村を挙げての飲み会」と毎年めんどくさがってる。

不信心ではあるけど・・・うん、村の女の人は総出で料理の準備があるもんね。しかたないね。

都市のほうでは、近くの村もすべて集まって収穫祭を祝うとか。

そうそう、こんな小さな村だから、僕の誕生日なんかも村総出で祝ってくれる。

.....

うん、収穫祭で酔っ払ったみんなに弄くられるだけなんだけど。

去年は村の酔っ払いオヤジ集団全員から頬ずりされたなあ。

うん、やめておこう。心の毒だ。

まあ・・・普通のプレゼントだってもらえるんだけどね。

今年は飲んでる集団には近づかないでおこう。

好意なのは分かるけど・・・ね。僕、こっ見えてナイーブなんだ。

気付けば日も暮れ、収穫祭も終わりを迎えようとしたとき

カーン、カーン、カーン

と、非常事態を告げる鐘が鳴る。

一瞬で広場に緊張が走るのが分かる。

「ねえ、父さん・・・何があったの？」

僕は恐怖に駆られ父にすがり付く。

「大丈夫だよウィル。小さな村だけど、ここの守りは堅いからね。

魔物モンスターや、ちよつとした盗賊くらいならなんとかなる・・・か・・・

ら

と、そこで父の声が途切れる。

すでに広場ひろばまで敵が侵入していたのだから。

それも、魔物でも盗賊でもない、組織的な動きをする何かが。

鐘の音が鳴ってすぐに広場は血に濡れた全身鎧の騎士達に囲まれて

いたんだから。

「バカな！？収穫祭ではあったが村には警備を十分に置いていたんだぞ。」

すると騎士たちの後ろから男が進み出てニヤニヤと気味の悪い笑みを浮かべ語りかける。

第1話「収穫祭（フェスト）」（後書き）

名前がひどい・・・だって？

思いつかなかったんですorz

第2話「実験場（フラスコ）」（前書き）

各陣営一人ずつしかまだ名前がでてませんね。
誰がかっこいい名前をおしえてくださいorz

第2話「実験場（フランスコ）」

あれからどれだけ時間が経ったんだろう。

覚えているのはあの日、村の戦える者すべてが挑み、首が落とされた。それだけだ。

しかし、首が落とされても開放はされない。

彼のつれてきた帝国の騎士に斬られた者はすぐには死ねないらしい。
ブラッディーカーズ
血呪剣という神魔の時代の呪具を参考に帝国が作り上げた禁忌の武器。

彼の軍団の持つ武器はすべて悪魔との契約により、その呪が付与まじないされていて、斬ってから10回日が昇るまでは灰になると再生し、死を許さない。そして10度目の日の出と同時に魂もろとも焼き尽くすと言われる黒い炎に包まれて消えるのだ。

曰く、10日目に対象の魂を喰らいに悪魔がくるのだとか。

言うまでもないがすべて実験は始め彼らに施された。

実験、つまり合成獣キメラ実験、アーマードソルジャー機械強化兵士実験、魔力拡張実験、異種交配（ハイブリット創造）実験だ。

帝国がエルフ、魔族に戦いを挑むための戦力を充実させるための狂気の実験。

合成獣実験とは、魔物の持つ力を人に宿すためその細胞を移植する実験。

機械強化兵士実験とは、人の身体からだに神魔時代の伝承に残る呪具を参考に作られた魔器を埋め込んだり、脳に電子頭脳を埋め込み本来のリミッターを外すことで本来の肉体の限界の身体能力を発揮することのできる兵士の製造実験。

派生として、リミッターを外しての戦闘に耐えうるだけの肉体強化を施す実験。

魔力拡張実験とは、世界に満ちたマナを人間の身体でエルフ以上に

扱えるように作り変える実験。そして、魔族に宿る血を人間に宿す実験。早い話、人にその血を混ぜることことでその力を取り込む実験。

最後に異種交配実験。生まれながらにエルフ、魔族の特性を備えた人間を生み出す実験。

さらってきたエルフ、魔族との交配実験。

結論から言おう。

村が帝国に襲われてから早1ヶ月。

すでに残っているのは僕を含めて5人だけ。

最初の10日で奴等に挑んだ20人が黒い炎に包まれていなくなつた。

次の7日で10人が死んだ。魔力拡張実験組だ。神の生み出したエルフの加護に、魔族の魔が残した血に耐えきれなかった。

その5日後7人が死んだ。機械強化兵士実験組だ。あるものは魔器の力に耐え切れず、またあるものは電子頭脳の命令に脳が耐え切れず、耐えられたものも、肉体の限界を超えた実験により死に至つた。そしてさらに8日後、8人が死んだ。

合成獣実験により魔物の細胞を移植された3名が生前の意識を完全に失い、魔物としての破壊衝動に駆られ、コントロールを外れ暴走を始めたのだ。

鎮庄の為、機械強化兵士の実験体が2、暴走に巻き込まれた合成獣実験体3。また、帝国の兵士も3名死亡、5名負傷の惨事となった。残ったのは、身体強化実験とエルフの血を与えられた僕。合成獣の暴走で生き残った試験体が1人。完成された機械強化兵士が1体。異種交配実験で壊れてしまったのが2人。

偶然か、生き残った合成獣試験体は兄さんだった。

母さんたちは・・・すでに死んだんだろう。

でも・・・その方が幸せなのかもしれない。

今の実験への呼び出しに震えるこの日々が続くよりは。ねえ、兄さ

ん。

そして今日。帝国の襲撃からすでに1ヶ月半。

僕に新しい実験が施されることになる。

合成獣実験、キメラ機械強化兵士実験、アーマードソルジャー魔力拡張実験だ。

3つの複合実験だ。

すでに僕に施されている身体強化とエルフの血の配合と合わせると交配以外のすべての実験をその身に施されることになる。

きっとこれで楽になれる。

やっと僕はこの恐怖から自由になれるんだ。

麻酔をかけられたのか意識が遠くなる。

遠くなる意識の中、誰かが僕にニヤニヤと嫌らしい笑みで声をかける。

「安心して。君は殺さないよ。君は実験の成果として生きててもらわないと困るからね。だからね、今回は君の左腕に処置を施すよ。失敗してもそこらへんに転がってる左腕をパーツ適当につなげてあげるから安心していいよ。ヒヒッ、ヒヤハハハハ」

第2話「実験場（フラスコ）」（後書き）

改行とか段落とか苦手なんだ。

ワードパットで作ったの貼り付けてるだけだからどうなってるのか
見るのが怖い><

第2・5話「兄弟」（前書き）

短い・・・あまりの短さに泣いた……

第2・5話「兄弟」

僕が気が付いたのは冷たい床の上だった。

「そうか・・・まだ死ねないのか」

一人呟く。

重い瞼を開け厳しい現実を目を向ける。

そこは見慣れた実験体の監禁部屋。

村の重犯罪者監禁用の牢獄の中。

変わったことといえば・・・ここにはすでに僕と兄さんの2人だけだつてことか。

「兄さん・・・僕達2人が残っちゃったね。」

眠っているのか死んでいるのか・・・何の反応も示さない。

僕があの実験を受けてどれだけの時間がたつたんだろう。

僕は兄さんに目をやる。

兄さんの変化は顕著だった。

すでに人としての原型が残っているのはその顔のみ。

角がある、コウモリのような翼ある。ヘビ尾を持ち、体は鱗に覆われている。牙だつて生やしている。

しかしそれ以上に全身に残る傷跡。特に腹部にある大きな穴が何より痛々しい。

僕が複合実験を受ける前は兄さんは普通の人間の容姿だった。

少なくともこんな傷なんて、腹部に穴なんてなかった。

僕が眠っている間にまた暴走でもあったのか、はたまた兄さんに施された実験がそれほどまでに過酷であったのか、自分で死のうとしたのか。

「ねえ、兄さん。兄さんはまだ僕の兄さんなのかな、生きてるのかな。ねえ・・・兄さん、僕が殺してあげようか」

第2・5話「兄弟」(後書き)

タイトル募集しています！

第3話「調停者」(前書き)

プロローグで出ていた調停者(竜)が早くも登場。

本当に登場するだけ。活躍はもう少し待ってあげてください！

別世界に存在する竜と意思の伝達が行えるのは竜の生み出した獣人のみです。

また、その力ゆえにこの世界への干渉は限られている。

現存する調停者は5人。

いつかでてくる！

第3話「調停者」

「成功だ、実験は成功だ。いやはや、思いもしなかった収穫だね、これは。ヒヒ・・・ヒャハハハハ」

男は高らかに笑う。

「ノイラート様、それほどまでに順調なのですか？」

騎士の一人が彼、ウイルの父を殺したリーダー各の男に声をかける。

「ええ。まだ不安定なのですが、意識は取り戻しましたよ。いやはや、意識を取りすだなんて思いませんでした。人形として本国で研究するつもりでしたが、まだまだ楽しめそうです」

ノイラートと呼ばれた男はいつもの笑みでそう答える。

「それで・・・僕達の会話中に何の用なのかな？許可を出した覚えはないんだけど」

先ほどまで二人しかいなかった部屋に一人の少女が現れる。

「申し訳あります・・・」

ひざまずき謝罪を述べる少女を蹴り飛ばす。

「以後気をつける」

少女は生氣のない瞳で男を見つめ何の感情もなく答える。

「申し訳ありませんでした、ノイラート様」

「それで・・・用件は？」

「はっ、こちらに向かってくる獣人を確認しました。分かっている数で獣人15。そして、まだ未確認ですが獣人とさえ比べ物にならない巨大な魔力が接近しています。」

「ヒヒ・・・ヒヒヒヒヒヒヒ。獣人が来るのが遅いとは思ったが、なるほど。調停者にも救援を求めたか。まあ、エルフに魔族までさらってるしな。実験が知れば全力でつぶしに来るのは当然のことか」

「如何なされますか？」

少女は男の指示を仰ぐ。

「お前は騎士団に付き獣人の相手をしる。可能であれば捕獲しておけ。最悪死体でもかまわん。捕まえ次第戻って来い。俺は調停者かもしれない者に興味がある。では行け」

「御意に」

「ノイラート様の為に」

瞬きひとつもしないうちに部屋から二人の姿が消え、静寂を取り戻す。

「さて・・・仕上げの準備をしましょうか。ははっ、ヒヒヒヒヒ」

ー同時刻ー

「ここか・・・。血の臭いがキツイな。」

ローブに身を隠した何者かが帝国によって荒らされた村へと足を踏み入れる。

全身がローブに隠しているにもかかわらず、その凹凸によりが女性だということが分かる。

「任務は・・・っと」

彼女は今回の任務を思い出す。

- 1、誘拐されたエルフの保護
- 2、誘拐された魔族の保護
- 3、襲われた村人の保護
- 4、事件に加担したものの処断
- 5、調停者の痕跡は残さない

「はあ・・・。」

何回目とも知れないため息をこぼす。

1、3はともかく・・・問題は4、5か。

加担した者の処断って言うてもどこまでが加担した者なのか分からない。

痕跡を残すな・・・って言ったって。

用は誰一人絶対に逃がすなって言う事だ。

今回で言うなら

エルフ、魔族、被害にあった村の住人の記憶の改竄。

事件に直接加担したすべての人間の排除。

「はあ・・・」

考えるだけで気が重い。獣人も最高ランクとは言わないも一流の実力者を集めた。数だつて十分のはずだ。

だが、村に着いてからずつといやな予感がしている。

「私のイヤな予感って当たるのよね。大体なんでわざわざ・・・」
と愚痴を零していると、村に入ってから感じていた不快感がいつそう強くなるのを感じた。

「なに？人間がこの私に魔力干渉でもしようって言うの？でも・・・

おもしろいじゃない」

意識を集中させる。

不快感の元、きつとこの事件の元凶であろう何かがある場所を探すために。

第3話「調停者」(後書き)

各話のーつづつが本当に短い。

もっと長くしたいけどそんなスキルはないんだorz
読んでもわからないけど書くのって難しい。

ー日何話も更新している筆者さんってスゴい。

第3・5話「実験の成果」（前書き）

作者は誘いだされたんダーネ！

ちなみに飲み会に誘い出されました。

きっとバレてると思うから素直に白状します。

この4話。元々は3話として一緒に投稿するはずだったんだ。

そしてこの3・5話、まさかの（？）ノイラート様視点。

作者の気分次第でかませ犬にもラスボスにもなれそうな彼。

ノイラートさんの明日はどっちだ！

第3・5話「実験の成果」

「さて、そろそろ来てくれるところでしょかね、ヒヒヒ」

彼が今いるのは村の広場だった場所。今では実験で使い物にならなくなった死体^{コミ}を置いておく場所。

「もうすぐ来てくれるのですね。ああ・・・愛^{ドリュコニア}しの調停者」

村人だったモノに囲まれ私は待つ。

もう来てくれるであろう私の実験の最後の素材^{パーツ}が。

・・・とそこで思い出す。

「ダメですね私は、興奮のあまり大切なことを忘れていました。本国にタイプ合成獣^{サンプル}の成果を一つくらいは送らないと何を言われることか」

そう呟き彼は今回の実験の成果に満足げに笑う。

そう、今回の実験は非常に有用な結果を残した。

未だ不安定ながらも生きた合成獣が1体。

魔器の埋め込みと電子頭脳によるリミッター解除。この二つが共に

正常に機能している機械化強化兵士が2体。

新しい発見として、異種交配を行った素体に魔力拡張実験を行うこ

とで受け入れられる血の限界量が増える事がわかった。

それになんとも彼だ。

複数の強化実験を受けてなお生きていると言う事実。

私の仮説は正しかった。

後は素材と時間があればいい。

そして素材は自らこちらに来てくれるんだから。

笑いが止まらないのは仕方ないだろう？

と考え事に耽っているといつの間にか彼の横には例の少女が現れる。

「お待たせしてしまい申し訳ありません。獣人を回収してきました」

インハルテ特有の白を基調とした民族衣装に包まれた、背の低い、少女。

彼女は自分の倍以上ある獣人を軽々とこちらに背負っている。

アイ
I そう、彼女こそつい数日前にこの村で生まれ変わった機械強化兵士、

今まで素体として扱ってきた中でも桁違いの魔器との適合率。

もはや天文学的な確立であろう魔器を取り込んでもマナを使えるという奇跡。

「ほう・・・さすがだな。ではその獣人の血を例の合成獣に。これであれば安定するはずだ。その後、共に一足先に帝国に戻れ」

「はっ。ところで・・・合成獣だけでよろしいのですか？ノイラー様のお気に入りはいかがいたしましょう」

私のお気に入り・・・複数の実験に耐えた例の少年の事だろう。

「かまわん。今回の実験で複数の強化を組み合わせる事で生存率を上げることができる・・・と言う事がわかった。それにもうあれは間に合わん。今頃は付加された力どうしが反発しあっているところだ。どれだけ急ごうが帝国まで持たないのでは連れ帰る意味がない」と太話は終わりだとはかりに私は話を打ち切る。

アイと呼ばれた少女もその意図を理解し、命令に則って動き出す。

アイがこの場を去り少しすると破壊音と共に念願の調停者が現れた。私はすでに準備していた言葉を彼女に浴びせることにする。

「ずいぶんお待ちしたんですよ。待ちくたびれてしまったではありませんか。人を焦らすのがお好きなんですか？」

第3・5話「実験の成果」（後書き）

今回はウィル君の同郷の機械強の兵士^{アイ}エちゃんが少しだけ詳しく描写されましたね。

彼女の着ていた民族衣装ですが 陰陽師狩衣をイメージしていただけたら。

なんとかファ タジア文庫のなんとかイレヴ ズに出てくる式神の^コちゃんの服。

え？アウト？

ごめんなさいorz

次回、ノイラート様のファーストネームがやっと発表できる！

え？どうだっついていい？

そうですか……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4649z/>

タイトル未定

2011年12月16日00時50分発行